

塩冶興久の死後、塩冶氏を名乗った武将は定かでないが、尼子氏は遂年衰ろえ永禄9年尼子義久は月山城を開城し毛利氏に降伏する。塩冶を名乗り塩冶城に拠った武将たちの系統はこの頃までに絶えたようである。(今岡 清)

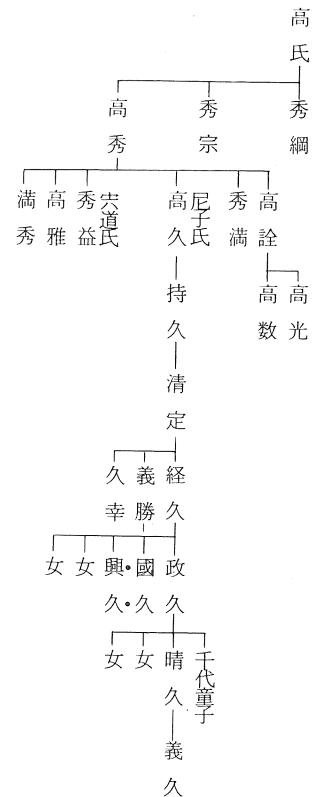


図20 佐々木(尼子)氏略系図

## (2) 朝山、塩冶地域の城跡

古代、斐伊川、神戸川の2河川の下流部には大念寺古墳、築山古墳に代表されるように大形古墳が営まれた地域であり、律令制時代にも朝山郷新造院という私寺や出雲国三軍団の一つ神門軍団や土棕烽の設置など、出雲地方西部において一つの大きな勢力があり、かつ、軍事上の要衝としての意味をもっていた地域である。

出雲市内には城跡として文献などから神西城、浄土寺山城、  
 鳶巣城、戸倉城、大廻城など 20 カ所程が知られている。しか  
 し、その城郭遺構の実態については踏査調査にしろ報告例が少  
 なく十分把握されていない。

ここでは出雲市内の城跡のうち朝山氏と歴史上殊に著名な塩冶氏の居城跡があるとみられる朝山町から塩冶町にかけて存在するいくつかの城跡について部分的な踏査をしたので、その概略を報告しておきたい。本来一定地域の丘陵部・麓をすべて踏査すべきであるが、それを実施してなく踏査も不十分であるから今後補正される部分も多くあると思われることを付言しておきたい。

## 雲陽誌にみえる城跡

神戸川と斐伊川に挟まれた朝山から塩冶あたりの丘陵部につくられた城跡について、黒沢長尚撰享保2年（1717）刊行の『雲陽誌』には次のような城跡がみえる。

1. 古城山 世俗平家丸といふ安来城主しれす相伝朱雀帝承平年中の城なりといふ
2. 古 城 唐黒山といふ
3. 古城山 塩冶判官高貞の居城なり
4. 古城山 麓に岩窟大小20ばかりあり上朝山塩冶境なり城主しれす（岩窟は横穴であろう）
5. 姉山の古城 馬木・勝定寺の説明で「庭前に仮山あり古樹長大なり、東に大河ながれて姉山の古城清々たり」とある

なお、江戸時代後期にかかれたと思われる『雲陽古城跡』には、「今市村 平家丸 但城主不

知」「上塩冶村 大廻 但同断」「上朝山村 姉山 但同断」「同村 カラスミ 但同断」と載る。

これらの記述からここでは『雲陽誌』にみえる1から5までの城跡をそれぞれ、1 平家丸跡、2 唐墨山城跡、3 大廻城跡、4 半分城跡、5 姉山城跡と呼んで記述をすすめる。

### 踏査した城跡

1) 平家丸跡 現在、県立出雲高校の敷地となっているあたりがそれにあたるが、出雲市の一の谷公園となっているあたりとともにすでに丘陵尾根部分には手が加えられ、城郭遺構についての状況を判断することができない。ただ『出雲一ふるさとの思い出写真集』にのる写真をみると明らかに郭があったことを確認できる。

2) 唐墨山城跡 朝山町集落の北側にある丘陵上に主郭がある。5 万分の1（木次）の地図で見ると朝山町の北東方向の標高 237.5 m のところにあたる。

この城跡の郭は細長い丘陵の尾根と一段高い山丘頂を削平してつくられている。主郭は大山権現を祭っている場所と考えられる。その広さは 37 m × 22 m である。そして、主郭を中心に北西側と南東側に郭が配される。北西側の郭は北西 1 郭、北西 2 郭の 2 つの郭からなる。北西 1 郭は主郭から 20 m 離れて 20 × 10 m の平坦地をつくる。北西 2 郭はさらに 90 m 下って、10 × 11 m の平坦地をつくる。それより下方は急峻な斜面となる。

南東側には主郭から 90 m ほどの間に 7 カ所の郭をつくる。南東 1 郭は主郭から 4 m ほど下方に作られ 8 × 6.5 m の広さをもつ。そして幅 4 m の堀切があり、南東 2 郭となる。この郭の下方中央部から道がとりつき、その両側に郭が設けられている。尾根のくびれ部となる部分には 16 × 13 m 南東の 7 郭があり、東側は道が土塁状となる。これらの郭の南には 7 郭と T 字になるように 6 × 48 m の細長い郭がある。これに続いて西の方向に細長い郭が 1 郭と東の方向は細長い郭、堀切、郭、堀切、急な崖となる。

この城郭は主郭の西側に郭を作ることのできる丘陵の張り出しがあるにもかかわらず、郭を作っていないこと、東南側に土塁を設けていること、堀切が東側にあることなどの点から北東側に対する防禦機能をもつ城跡とみたい。

この城跡の西側の丘陵に真言宗醍醐派金剛峯寺・大坊寺がある。現在は小さな堂宇が残るのみであるが、大坊寺の東側一帯の丘陵地には幾段もの現在水田となっている平坦地があり、城跡の名残りともうけとれる。また、その一角には吉祥女の塚と称する古い様相の大形の五輪塔があり注目される。

3) 大廻城跡 明治 9 年に作成された第 46 区神門郡上塩冶村「村作道長幅取調帳」には「字下沢角田垵より向山より向山平ヶ加丸今市村境迄」「字上沢ノ内判官井手より間府川迄」「字上沢ノ内間府川より大迫本谷マテ」「字上沢ノ内式斗代中谷より大廻井手マテ」「字下沢ノ内大廻本谷

池より式千五百拾番1田マテ」という記述がある。このことから大廻という地名は旧上塩冶村地内にあって、現在の向山団地から出雲自動車学校の北側あたりに求めることができる。

そこで、自動車学校の北側丘陵から長者原の丘陵地にかけて踏査してみたところ殆んど尾根部分はブルドーザにより原形を損い城郭遺構の片隣をも見い出せない。しかし、向山団地の北側丘陵の西端部には明瞭な郭が残っている。これはかつて向山所在古城跡として紹介したことがある。即ち、この城跡は一辺30mの方形の主郭をおき、その西側に1郭、そして、その郭の南側に一郭、さらに下って丘陵の中腹地に一郭をおく。主郭の東側は自然丘を残し天然の土塁とし、丘陵の途切れるところで堀切としている。北側には5段ほどの小さい郭を配する。南側の麓の方に民家や向山団地があり、これらの平地は館があったと推測される地形である。この城跡は標高40mと低い丘陵に作られた城跡であるが、郭一つあたりの規模がかなり広くかつ、単純である。ただ館跡の裏山を加工しただけという感じで、山城跡として古い様相をもつものである。この城跡は東ないし北側に対する防禦機能をもつ。

**4) 半分城跡** この城跡については大井谷城跡の一部とともに今回調査対象となった城跡であるので、その子細については省略するが、この城跡は相当広い範囲山丘や丘陵地に郭を配している。主郭あたりの土塁状などの城郭構造からは北側に対する防禦機能をもつ。

**5) 姉山城跡** 出雲市朝山町に所在する城跡である。神戸川と稗原川の合流する地点の南接する山丘上に郭が営まれている。朝山神社や雲井滝のある丘陵からは北に隣接する山丘であるが、三方は前述の2河川によって囲まれている。島根医科大学の方からみるとあたかも独立丘陵のように屹立し、斜面は急である。最高部は190mある。

この城跡は山丘の北側半分に郭をつくっている。南側半分には郭は認められない。北側半分は丘陵の高まりが2カ所あり、それに応じて大きく2つの部分からなっている。このうち北側丘上に主郭が営まれている。主郭は16m×24mの不整形の円形である。主郭には土塁は認められない。主郭から北には幅の狭い帯状の郭が3段ほどあり、さらに、それらから東より下方には広い2、3段の郭があり、整美な土壇が残る。広さは60×24mである。郭の東側に接して主郭に通ずると考えられる幅2.5mの道がとりついている。そして、この道は下方にも下る道があり、その途中には6m×9mほどの小さな郭が2カ所認められる。

主郭の西側には2つの郭が丘陵を削ってつくられている。西1郭は18×10m、西2郭は18×12mある。この2つの郭の南側は自然丘のまま残るが、道にそって下ると小さな郭が2カ所ある。さらに下って鞍部部分にも郭がある。さらに南に丘陵を上ると郭が認められる。丘陵を平坦に加工し、幅の狭い、長い郭をつくっている。

なお主郭の西北下方の送電鉄塔付近には姉山大権現を祭っていたというのが、今は北麓稗原川を渡った藤原富吉宅裏に祭っている。南東の麓には地元の人たちが殿様屋敷と伝えているところがある。

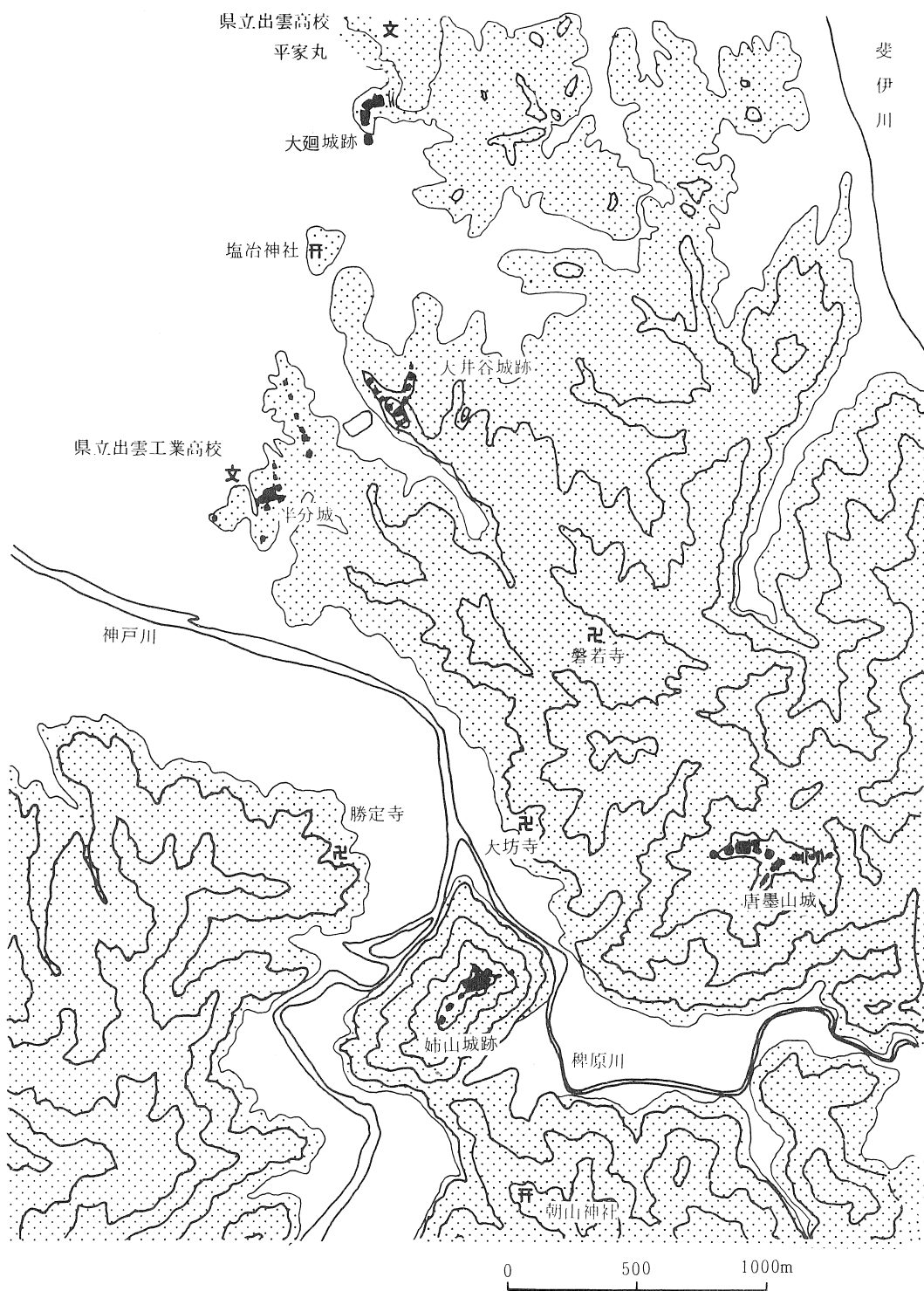


図 2 1 朝山、塩冶地域の城郭配置

これは、 $20\text{ m} \times 25\text{ m}$ の平坦状地で、石垣や井戸も残っており、一見して屋敷跡とわかるが、往時のものとは推測しがたい。

姉山は突出丘が3カ所ある。頂上部分の北側2カ所を加工しているが、防備の機能を考えると北側の出雲市街の方向からの攻めに対するものであろうと考えられる。

以上、5カ所の城跡と今回調査対象となったうちの1つ大井谷城跡等を防禦といった点から考えると次のようであろうと推測される。

向山所在の城跡は北ないし東に対する防備機能をもつ。同じように半分・唐墨・姉山もそうである。ただ、大井谷城跡は南側に対する防備機能をもつとも考えられる。

従って、向山所在城跡・大井谷所在城跡は菅沢から下沢の平地を守るかのようであり、半分・唐墨・姉山の各城跡は北方に対する防備機能をもつ城跡であろうと考えられる。

平野に近い平家丸跡や向山所在城跡が古い時期の城跡であり、より標高の高い丘陵に築かれた城跡は新しい時期の城跡であろうと考えられる。ただ、見張りのな砦と居城との区別を今後する必要があるが、憶測が許されるならば、前者が塩冶氏初期の城跡であり、後者が興隆発展していった段階（雲陽軍実記にいう塩冶城）で移っていった城跡であろうか。

今後、館跡の所在をも突きとめる必要がある。（勝部 昭）